

平成29年度学校地域連携コーディネーター情報交換会（全体会）を開催しました。



【会場の様子】

平成29年5月22日（月）に、学校地域連携コーディネーターを対象に、「平成29年度学校地域連携コーディネーター情報交換会（全体会）」を開催しました。情報交換会では、各学校におけるスクールサポートネットワーク（SSN）の実践事例発表や協議を行い、成果や課題等の共有を図っています。

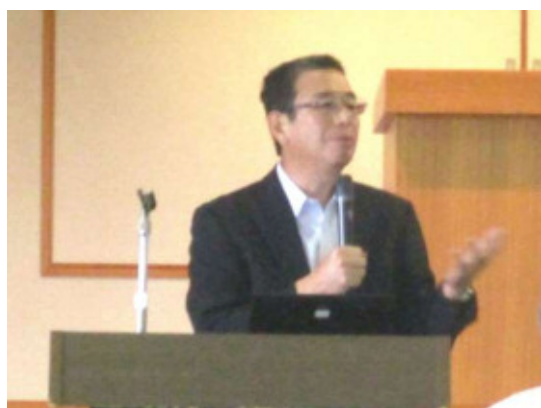
今回は、市立南浦和中学校の相場 武彦コーディネーターと、市立指扇小学校の篠原 邦雄コーディネーターの2名が、SSNにおける地域との連携を中心に、所属校での活動内容を発表しました。

相場コーディネーターからは、南浦和中学校での取組についてお話がありました。近隣の小・中・高等学校と地域との連携事業の一つ「おもしろサマースクール」において、小学生のAED 訓練やアイスクリーム作り体験等を南浦和中学校の生徒がボランティアで手伝う取組の紹介がありました。

また、地域との連携について、「学校の様子を地域に伝えるには、生徒が地域に出て交流することが最も効果的である。」「地域の状況が学校に伝わりにくいことが課題で、私自身が積極的に地域の行事に参加し、地域の方々と言葉を交わすよう心がけている。」とし、直接地域に出向き、コミュニケーションを図ることの大切さについてお話がありました。



【相場学校地域連携コーディネーター】



【篠原学校地域連携コーディネーター】

続いて、篠原コーディネーターから、指扇小学校でのチャレンジスクールの様子や、読み聞かせ・英会話教室等の保護者ボランティアによる学習支援、地域の方々の御協力による田植え・いもほり等の体験活動などの取組について紹介がありました。保護者や地域の方が学校を訪れたり、児童が地域で活動したりして交流を深めることにより、コミュニケーションの輪が広がり、学校への理解が深まっているそうです。

また、交通指導員・防犯ボランティアによる安全指導やJR職員による踏切通行の講話など、地域の方々の御協力が児童の安全の大きな支えになっているということについてもお話がありました。

学校地域連携コーディネーターは、さいたま市では、全ての市立小・中・特別支援学校に1名ずつ配置されている学校職員で、学校と地域の皆様をつなぎ、地域ぐるみで子どもを育てるために、日々活動しています。本年度も、引き続き各学校でのSSNの取組をご紹介します。

今回は、北区の市立泰平小学校の取組を御紹介します。

泰平小学校では、デイサービスセンター・保育園・中学校・高等学校と互いに隣接し合っているという地の利を生かし、地域と一体となった教育活動を積極的に推進しています。

＜デイサービスセンターの方々との触れ合い＞

泰平小学校では、デイサービスセンターが校舎内に併設されているという恵まれた環境を生かし、福祉教育に力を入れています。

1・2年の生活科や3～6年の総合的な学習の時間の年間計画に、デイサービスセンターとの交流を明確に位置付けて、お年寄りとの触れ合いを行い、思いやりのある心豊かな児童を育成することを目指しています。

特に1年生は毎日の「のびのびタイム（休み時間）」にデイサービスセンターに行き、折り紙を教してもらったり、オセロやお絵かきをしたりして、お年寄りとの交流を深めています。



【お年寄りを「絵をみる会」に招待して】

＜大宮工業高校との交流＞

大宮工業高校との交流は5年ほど前から本格的に始まりました。主な活動としては、高校の社会貢献事業の一環として、小学生登下校時の見守り活動、チャレンジスクールへの出前授業や高校陸上部による駅伝練習への指導などが挙げられます。

また、夏休みに大宮工業高校が募集する「ステキなタテモノ」アイデアコンクールにも数多くの児童が出品して入賞するなど、交流を深めています。



【大宮工業高校出前授業（放課後チャレンジ）】

＜泰平中学校との交流＞

泰平中学校とは、敷地が隣接していることもあり以前から交流は行われていました。5年前に小・中一貫教育推進モデル校に指定されてからは、より活発な交流が図られてきました。

そんな中、昨年从小・中学校合同の土曜チャレンジスクールを夏休みに開催しています。この活動には大宮工業高校の先生も指導者として参加していただき、児童は普段よりも多くの学習アドバイザーから指導をもらうことができました。その結果、夏休みの宿題がだいぶはかどったようです。この取組は、保護者からもとても好評で、次年度以降も継続発展させていく予定です。



【小・中学校合同土曜チャレンジスクール】

泰平小学校の取組からは、お年寄りや中学生・高校生、地域の方々など様々な年代や立場の方との交流を通して、子どもたちが豊かな心をはぐくみ、成長している様子が伝わってきます。

今回は、北区の市立宮原中学校の取組を御紹介します。

宮原中学校では、家庭や学校で培った力をさらに伸ばすために、地域の方々と協力・連携し、地域力を生かしたオリジナリティあふれる交流活動・体験活動に取り組んでいます。



【カヌーにチャレンジ】

〈チャレンジスクールでの地域講師による体験活動〉

チャレンジスクールでの活動計画では、地域で様々な活動を行っている方々との交流を通して、豊かな心を育ててほしいと願い、学習活動だけではなく、地域で活動しているサークルの方を講師に招いた体験活動も行っています。これまで、読み聞かせ、墨絵、絵手紙、折り紙、書き初めなどを行いました。宮原公民館を利用した活動もあります。今年は、新たに大宮カヌークラブの方々の協力で、カヌーの体験活動を行いました。これからもどんな新しいことにチャレンジできるか楽しみです。

〈中山道みやはらまつりへの参加〉

今年で第26回を迎える中山道みやはらまつりに400名近くの生徒が参加し、3基の神輿を担ぎ、阿波踊りにも挑戦しました。また、地域の方々による「みこし教室」や「リーダー研修会」を通して、生徒に自主的な活動ができるよう法被の着方、神輿の担ぎ方、阿波踊りを御指導いただきました。保護者からは「地域の人達に指導してもらいながら神輿を担ぐのはいいこと。この取組も浸透してきました。一致団結し、汗を流す姿を見ていて感動です！」と感想が寄せられました。



【みこし教室】

〈学校と地域受入れ事業所との連携〉

9月5日（火）～7日（木）の3日間、1年生334名が、地域の91事業所の協力を得て、職場体験学習を行いました。体験後、生徒が将来の職業について考え、将来への見通しをもって生活しようとするなど、体験を通して職業観や勤労観をはぐくんだ様子が伝わってきます。事業所の方からは「元気で明るい中学生と接し、職場に活気が見られました。夢に向けてがんばってほしい。」といった感想が寄せられています。体験後には、土曜公開授業を活用し、廊下に掲示した活動報告書を、保護者や地域の方に御覧いただいたり、受入れ事業所の方を学校にお招きし、体験時の生徒の様子をまとめた映像を御覧いただき、情報交換会を実施したりするなど、学校と受入れ事業所との連携を図っています。



【未来くるワーク体験】

宮原中学校の取組からは、生徒が多く地域の方々の御協力のもと、地域の中で様々な活動に挑戦しながら、たくましく成長している様子が伝わってきます。

今回は、西区の市立宮前中学校の取組を御紹介します。

宮前中学校では、地域との豊かなかかわり合いの中で、様々な活動に取り組んでいます。

＜番場公園の緑化ボランティア＞

宮前中学校では学期ごとにボランティア生徒を募り、学校からさほど遠くない場所に位置している番場公園の清掃や花植えのボランティア活動を行っています。この活動は、地域に貢献できる生徒の育成を目標に、公園緑地協会と連携して平成26年からスタートし、今年度で4年目を迎えました。

生徒の募集、当日の誘導や用具の運搬等は生徒会役員が中心になって行い、多いときには100名を超える生徒が参加しています。この活動を始める4年前は、番場公園には花壇も少なく、公園としてはやや寂しい環境でしたが、今では季節ごとに花のある潤いのある表情を見せてくれるようになりました。この活動が、そのことに微力ですが貢献できていると考えています。



【番場公園での活動の様子】

また、生徒が作業をしていると、散歩に来られた近隣の方から「ありがとう」「きれいになって気持ちがいいよ」などと声をかけられることもあり、生徒の励みになっています。このような地域の方との繋がりが、参加している生徒の地域の一員としての自覚を高めるとともに、地域に関心をもって何かできることはないかを考える機会にもなっています。また、このような活動の継続が、生徒の心の中に地域の環境を大切にしようとする気持ちや地域のために貢献しようとする気持ちを確実に育てています。



【代表の方への鉢花のプレゼント】

＜「会食のつどい」への訪問＞

日進地区社会福祉協議会が、月ごとに行っている一人暮らしの高齢者の方を対象とした「会食のつどい」に、生徒会本部役員と文化部の生徒が訪問し、アトラクションの時間に演技発表を行うとともに、生徒たちがこの日に向けて準備してきた鉢花を、出席している高齢者の方一人ひとりに手渡してプレゼントしています。この活動は、自分たちを見守り育ててくれた地域の高齢者の方々に日頃の感謝の気持ちを伝えると同時に、自分自身も地域の方々に支えられていることを理解し、地域の力になろうとする姿勢をはぐくむことを目標に毎年行っており、今回で18回目の訪問となりました。

今年度は2月13日（火）に、会場となっている日進公民館を合唱部、吹奏楽部、演劇部と生徒会役員あわせて50人が、チューリップの鉢花100鉢を持って訪問しました。たくさん的高齢者の方を前にした発表ということもあり、やや緊張した表情も見られましたが、演技発表ごとにご挨拶と笑顔と大きな拍手、そして終わりには代表の方からお礼の言葉をいただくことができ、生徒たちには喜びとともに満足した様子うかがえました。このような貴重な体験が、日進地区社会福祉協議会の御理解と御協力のもとに長く続けられていることに、とても感謝しています。

宮前中学校の取組からは、生徒が地域のボランティア等に積極的に参加することで、学校の中だけでなく、学校の外でも心豊かに成長している様子うかがえます。